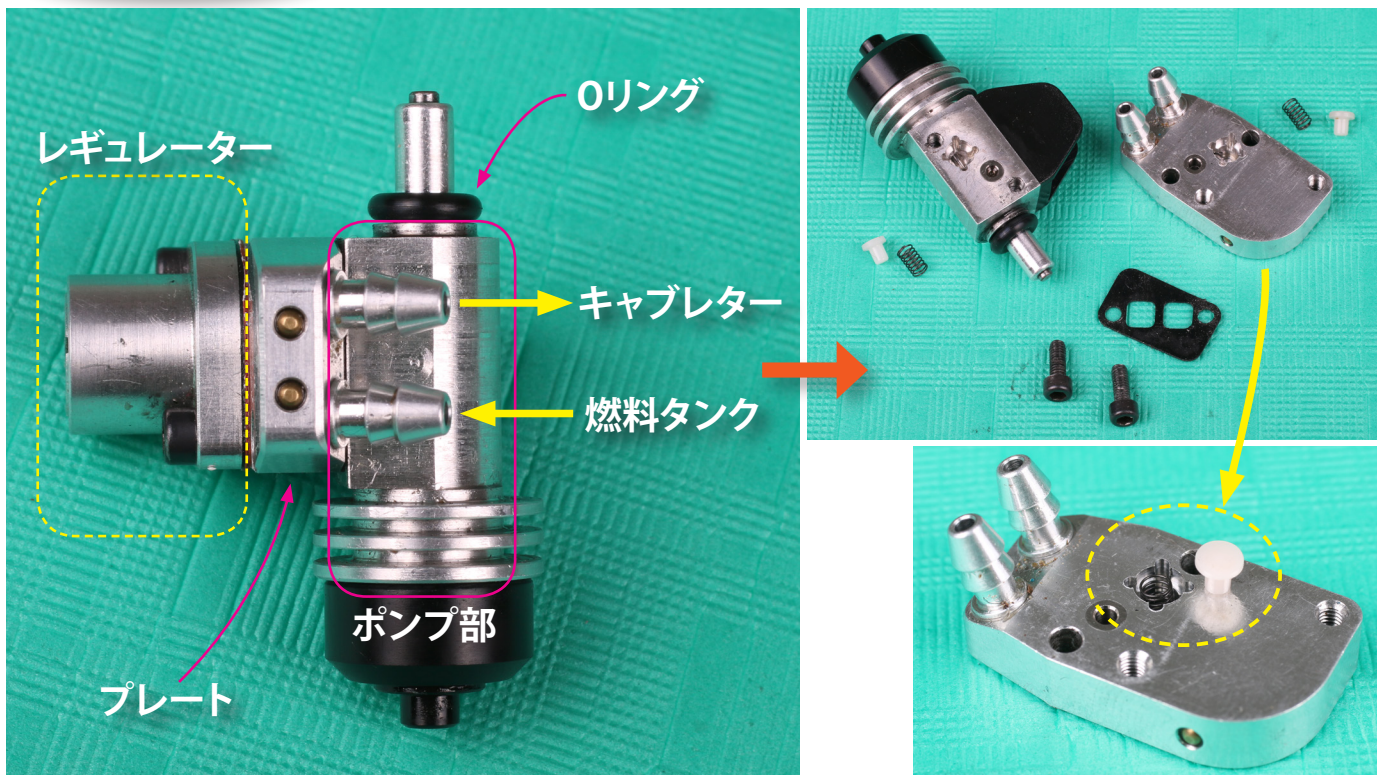


インジェクターの「フタ」の部分を外すと上の写真のようになっており、**A**のニップルから入った燃料はインジェクターの中に入って**B**の穴に抜けて、**C**の穴からエンジンヘッドの燃焼室へと流れていく。この流れていく過程の中で掃除すべき経路は**C**の穴である。この穴に「マチ針」か、もしくは0.7mm以下の針金(ピアノ線)などを通過させ、そのまま突き抜ければOKとなる。この作業でゴミ掃除はすべて終了だ。

さて、エンジンの調子が出ないことで始めた掃除だが、この掃除以外で考えられることは、フィルターが極端に汚れているか、燃料パイプ(シリコンチューブ)の途中で空気が漏れていることが考えられる。目に見えないような小さな穴が開いていると、そこから空気を吸い込んでエンジンの調子が出なくなることもある。この場合は、燃料システムをすべて交換するといいたいだろう。ちなみに、YSエンジンのポンプは

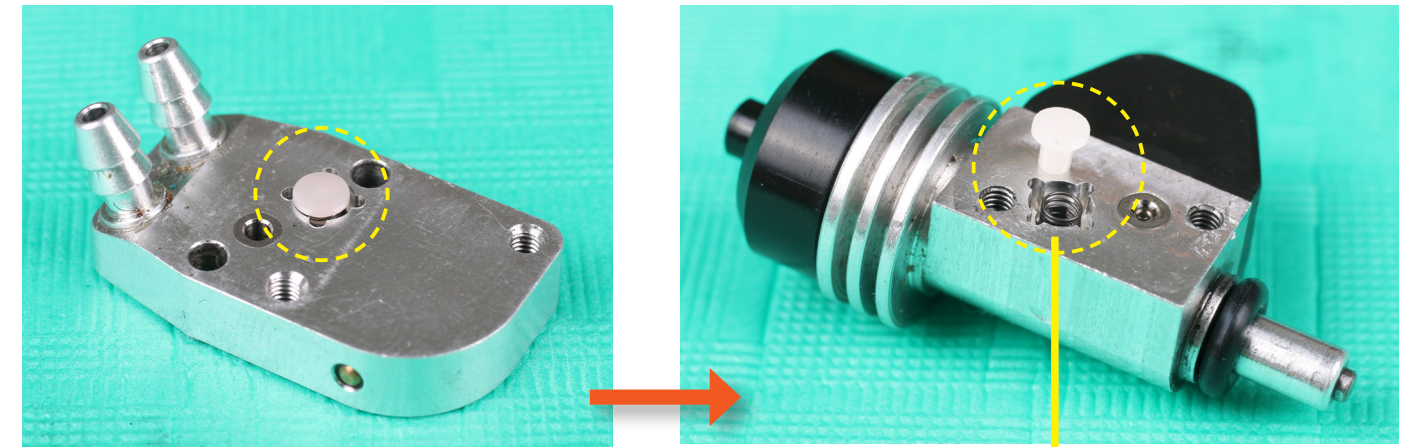
吸引力が強いので、燃料経路にゴミ等が詰まって燃料が通り難くなると、燃料の中に泡が発生する場合がある。なので、シリコンパイプの中を流れる燃料に泡が混じっていたら、まずは燃料フィルターの汚れを疑ってみよう。燃料フィルターを交換しても症状が変わらず、エンジンの調子がでない場合は、今回のようなエンジンの掃除をするといいたいだろう。あと、プラグを新しくすることも忘れないこと…である。

分解掃除編 ポンプとレギュレーターを分解したときに注意すること

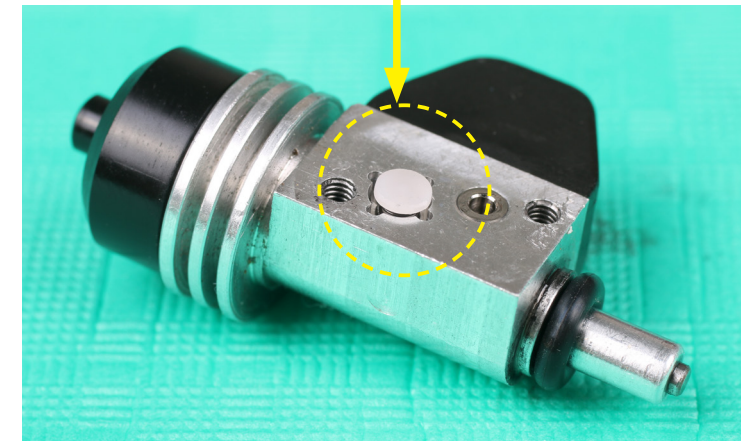


↑「レギュレーター」と「プレート」を外すと徹底的な掃除が可能だが、部品が小さくて無くしてしまう可能性が高いので相当な注意が必要だ。

↑小さなバネと白いパーツを小さな穴に入れるので無くさないように作業すること。



↑「小さなバネ」の上に「白いパーツ」を写真のように乗せるが、バネに飛ばされて無くさないようにしよう。



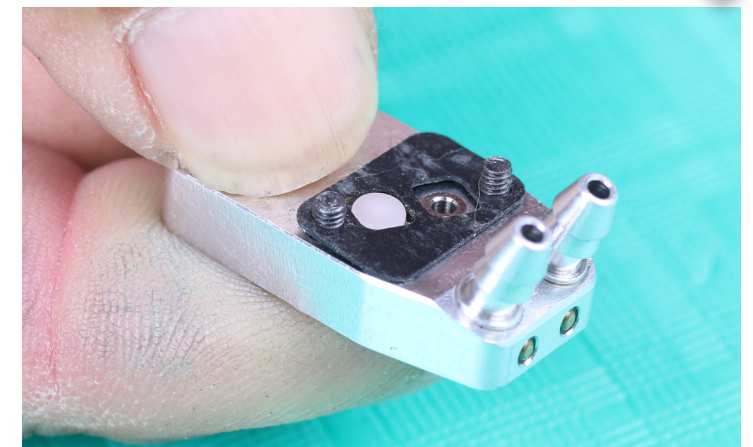
↑前出のプレートの時と同じ要領で、「小さなバネ」の上に「白いパーツ」を写真のように乗せて組み立てていく。

解説者



YSドクター 近藤 均氏

YSエンジンの開発に長年携わっている近藤均氏。どんな症状のエンジンも修理してしまうことから「YSドクター」と呼ばれるようになり、全国から多くの支持を得ている。近藤氏自身もF3Aの選手権フライヤーで、現実的な実践派の技術者である。



↑「プレート」と「レギュレーター」を合わせるときに、両者の間に「黒いパッキン」を挟むことを忘れないようにすること。

広告